

# なれ合いから起こる問題

—精神科病院での暴力や虐待防止を考える—

令和6年7月 安田病院 君塚まり子

# はじめに

令和4年頃から明らかに became 患者さんへの虐待のニュースや動画を見て、今の時代もそんなことがまだあるのかと心を痛めた。精神科病院でのなれ合いの関係は自身も違和感があり、研修先の講師の方からも「精神科だけだよね、一般科じゃないでしょう、“ちゃん”付けしているうちは患者さんの自立は促せない。」「暴力事件の原因を追究したところ、“ちゃん”付けがはびこっていた例がある。」との話を伺った。

病院は、家庭的関係ではなく治療的関係を構築しなければならないということを再認識したため、H31年3月の院内研修で「ちゃん」「くん」付けが与える影響について話をしたことがあった。今年度は虐待防止研修も実施し、暴力への因果関係がなれ合いから起こりやすいこともわかった。

CVPPP(暴力防止プログラム)の教本の中にも「常に信頼関係を築くためには原点に戻らなければならない」<sup>1)</sup>、「職場環境として暴力をとらえる」というテーマがあり<sup>2)</sup>、また「精神医療の現場において比較研究がしにくい領域」<sup>3)</sup>と書かれている。同じ轍を踏まない様に、今後も継続的な教育が必要であることを伝えていくために、今回アンケート調査を行ったので報告する。

# I 研究目的

H31年の院内研修の効果が出ているのかを確認し、現状を知り、今後の関わり方に活かす。

## Ⅱ 研究方法

- 1、調査方法：研修後にアンケート用紙を配り、無記名で回答
- 2、研究対象：研修参加者全員(31名)
- 3、データ収集日：令和6年3月X日
- 4、データ収集方法：質問項目によりまとめる

## Ⅲ 倫理的配慮

所属施設の理事長、管理者に承認を得た。アンケートは無記名とし、個人が特定できないよう配慮した。

## IV 結果

(31名のうち提出28名 回収率90%)

①平成31年3月20日の院内研修で「ちゃん」「くん」付けが与える影響の内容を知っていますか？

在職していた方 → 1. 知っている(11名)  
2. 忘れた (2名)  
3. 知らない (0名)

在職していなかった方→

1. 内容を聞いて知っている(3名)
2. 知らないがとても重要と思う(12名)

②職場の現状はどうですか？

A:ちゃん、くん付けがなくスタッフ皆が丁寧な言葉  
を使っていて雰囲気の良い職場である

1. はい(20名)    2. いいえ(8名)

B:まだ時々不適切な発言をしてしまう、あるいは不適切な言動を聞くことがある

1. はい(12名)
2. いいえ(16名)

③家庭的関係と治療的關係について理解し、病院では治療的關係を構築することが重要であることを認識しましたか？

1. はい(28名)
2. いいえ(0名)
3. どちらともいえない(0名)

④今後、患者さんとの治療的関係、また、職員間の話し合える関係を構築するために、あなたはどのようにしていきますか？( )内にお答えください

# 患者さんとの治療的關係

- 接遇関連(適度の距離感、相手の立場、言葉使い等)に気を付けていく(27名)
- 無回答(1名)

# 職員間の話し合える関係

- ・接遇関連(コミュニケーションの取り方、公私の区別、言い方、お互いに感謝・尊重等)に気を付けていく(26名)
- ・無回答(2名)

## V 考察

- ②のAについて、7割が「ちゃん」「くん」付けが無いと回答しているが、Bでは4割が不適切な言動・発言ありと答えていることから、前回の研修の効果は出ているが、一部まだ変えられない職員がいることがわかる。
- ④の問いでは大きく接遇関連とまとめたが、具体的な回答が多くみられ、普段から患者さんはもちろんのこと、職員間でも接遇を心がけ、自分の考えを言葉にする訓練と努力をし、お互いに気持ち良く仕事をしたい気持ちが十分にうかがわれる。

## VI 終わりに

- 患者さんが安心して適切な治療を受け、また、職員も気持ちよく働ける病院であるために、まずは職員関係を良くし、患者さんへの対応もより良くなると、暴力や虐待は起こらないのではないかと期待したい。

# 引用文献

- 医療職のための包括的暴力防止プログラム、2015年9月1日第1版第9刷、医学書院、1)12頁25行、2)17頁25行、3)26頁19行